

一般質問 主な質問と答弁

障がい者雇用対策

環境と福祉の融合により雇用を創出 小型電子機器等の再資源化作業を担う

吉田 淳基

(自由松風会)

質問 障がい者が自立した生活を送ることができるよう雇用対策をさらに講じていく必要がある。環境と福祉の融合による新しい取り組みが障がい者の雇用創出に結びつくと考えているが、見解を聞きたい。

答弁 さらなる障がい者雇用の創出については、市内で回収した小型電子機器の選別や電池除去などの処理作業を障がい者雇用の場として活用する方向で、実施に向け準備を進めている。これは、平成二十五年四月施行の使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律に係る取り組みの中で、本市、茅ヶ崎市及び寒川町で構成する湘南東プロックにおいて、本年十月から実施を予定しているボックス回収イベント回収に係る実証事業の中間処理作業である。

また、そのほかのリサイクル関連事業においても、障がい者雇用につながる作業について協議している。その結果、低コストでのLED化が可能で、防犯灯の追加や変更等に対して柔軟に対応できるという理由から、市費により年間一定数の防犯灯を交換する方式を採用することとした。なお、地元電気事業者で組織されている防犯灯協力会からは、省エネ施策として防犯灯のLED化を行うことについて理解をいただいている。

防犯灯のLED化 今後の方向性は

塚本 昌紀

(藤沢市公明党)

質問 防犯灯のLED化について、これまでの検討内容と今後の方向性について聞きたい。

答弁 防犯灯のLED化の手法として、ESCO(※)もしくはリースによる一括交換方式、市費単独での一括交換方式、年間一定数の防犯灯を交換する方式の三つについて検討を行っている。その結果、低コストでのLED化が可能で、防犯灯の追加や変更等に対して柔軟に対応できるという理由から、市費により年間一定数の防犯灯を交換する方式を採用することとした。なお、地元電気事業者で組織されている防犯灯協力会からは、省エネ施策として防犯灯のLED化を行うことについて理解をいただいている。



再資源化作業の対象となる小型電子機器

に交換し、事業進捗が最も効果的な三年間で完了する計画で調整をしている。また、防犯灯のLED化については、公共施設や公園灯のLED化なども含めた市のLED化計画を策定し、その中に位置づけて進めていく。今後のスケジュールとしては、平成二十六年年度に予算化できるように今年度末に自治会・町内会にLED化計画を説明し、調整を図る予定である。また、必要な場所に適切な明るさを確保するため、防犯灯の適正配置の調整や管理台帳の作成など、地域の防犯方向上を図っていく。

生活保護基準見直し
その理由と影響は

土屋 俊則

(日本共産党藤沢市議会議員)

質問 生活保護制度は、憲法第二十五条に基づく最後のセーフティネットであり、拡充が求められているにも関わらず、なぜ今、生活保護基準の引き下げを行うのか、見解を聞きたい。

答弁 生活保護基準は、一般所得世帯の消費実態と均衡が適切に図られているかを定期的に引き合わせるため、全国消費実態調査などをもとに五年に一度、検証を行う必要があるとされている。今回の見直しについては、現在の生活扶助基準額と一般所得世帯の消費実態を比較、検証した結果を踏まえ、世帯構成及び地域差による影響を調整するとともに、物価動向を勘案することにより行われたものである。なお、見直しによる受給者への影響を一定程度に抑える観点から、現行基準を一定程度に引き上げ、現行基準を一定程度に引き下げるという対応を基本として行っている。

市民ランナーの意見を参考に運営を協議
第4回湘南藤沢市民マラソン
女性の視点に配慮した運営を行う

浜元 輝喜

(まつき会)

質問 平成二十五年一月開催の第三回湘南藤沢市民マラソンは、細部にわたり改善され、魅力ある大会となったが、第四回大会の概要について聞きたい。

答弁 第四回大会については、市民ランナーからの意見を参考にしながら運営委員会において詳細を取りまとめ、実行委員会にて協議決定していく。大会運営については、これまで運営管理会社に包括委託していたが、地元関係団体など一層緊密な連絡調整を図り、地域特性を生かすため、体育協会や商工会議所等が構成する実行委員会が直接運営することとなった。改善点としては、今大会に参加した女性市民ランナーを運営委員会委員に選出し、より女性の視点にも配慮した運営を行うことである。

東木 久代

(藤沢市公明党)

質問 藤沢のまちの魅力アップを図るため、市の花である藤の花を生かした取り組みが現在行われているが、さらなる活用について見解を聞きたい。

答弁 ハーフマラソンを行うためには、四車線道路の

議員全員協議会を開催

(仮称)新たな市政運営の 総合的な指針の考え方について報告

議員全員協議会は、六月二十六日に開催され、(仮称)新たな市政運営の総合的な指針の考え方について報告を受け、これに対し、質疑を行った。

(市の説明)

市長の交代に伴い、現行の新総合計画の見直しを行う中で、総合計画自体の検証を行った結果、新総合計画にかえ、(仮称)新たな市政運営の総合的な指針を策定することとした。

新たな指針(一次案)の基本的な考え方的一点目は「課題解決」である。行政課題を長期的な課題と喫緊の課題に整理した

に、封筒や新庁舎建設に合わせたオープンデータ(※)に関するステンドグラスのデザインなどに藤の花を活用することも検討していきたい。

質問 藤の花言葉は歓迎であり、おもてなしの真心を表現する際にふさわしいと考えるが、見解を聞きたい。

答弁 藤の花言葉に込められているおもてなしの心を今後さまざまな方に伝え、職員が改めて認識することにより、市民サービスの向上やシティプロモーションの取り組みにつなげていきたい。

オープンデータ 今後の取り組みは

有賀 正義

(みんなの党藤沢)

質問 昨年注目をされ始めたオープンデータ(※)は、誰でも自由に利用、再利用、再配布できる情報のこと。例えば、市が保有するデータのうち、人口などの統計情報や地図情報など個人情報を含まないもの。

(※)ESCO…省エネルギー効果が見込まれるシステムや設備などをエネルギー使用者に対し提案、提供し、維持管理まで含めた包括的なサービスを提供する事業。